

佐賀県における水稻病虫害防除の現状と課題

佐賀県農業試験研究センター こん 藤 とも 弥

はじめに

佐賀県は九州の北西部に位置し、北は玄界灘、南は有明海に面している。有明海に面している佐賀平野では地形を生かした土地利用型農業が盛んであり、米、麦類、大豆、タマネギ等の栽培が行われている。耕地利用率は2022年のデータであるが133.7%と高く、耕作地の有効活用がなされている。

佐賀県は、温暖な気候であることから水稻の栽培期間中は常に病虫害の脅威にさらされるため、各種の取り組みが行われている。

今回は、近年の佐賀県における水稻栽培、主な病虫害とその対策の現状と課題についてとりまとめたので紹介する。

なお、本稿は2025年9月に開催された日本植物防疫協会シンポジウム「最新的水稻における病虫害防除を巡る課題」での講演をまとめたものである。

I 佐賀県の水稲栽培の状況

佐賀県の水稲の作付面積は、近年減少傾向で推移しており、2024年では22,400 haとなっている。佐賀平野においては、水稻・大豆の裏作に麦類、タマネギが作付け

される二毛作体系が盛んに行われている。

本県の水稲で主に栽培される品種は、‘夢しずく’、‘ヒノヒカリ’、‘さがびより’、‘ヒヨクモチ’の4品種で、これらで全作付面積の90%近くを占めている。‘夢しずく’は県育成の早生品種で、高温耐性を持ち、2023年産、2024年産と連続で特Aを獲得している。‘ヒノヒカリ’は中生品種で以前から栽培されている品種であるが、高温耐性を持たないため近年品質低下が問題となっている。‘さがびより’は、県育成の中生品種で、高温耐性を持ち、15年連続で特Aを獲得している。

各品種の平坦部における栽培状況は図-1に示したとおりで、いずれの品種も5月中～下旬にかけて播種し、移植は早生品種の‘夢しずく’では6月上～中旬、中生の‘ヒノヒカリ’、‘さがびより’では6月中～下旬、晩生の‘ヒヨクモチ’では6月下旬である。収穫は‘夢しずく’で9月下旬、‘ヒノヒカリ’は10月上旬、‘さがびより’は10月中旬、‘ヒヨクモチ’は10月下旬である。

II 本県水稲で問題となっている病虫害について

本県の水稲栽培で問題となる主な病虫害は、ウンカ類（主にトビイロウンカ）、コブノメイガ、スクミリンゴガ

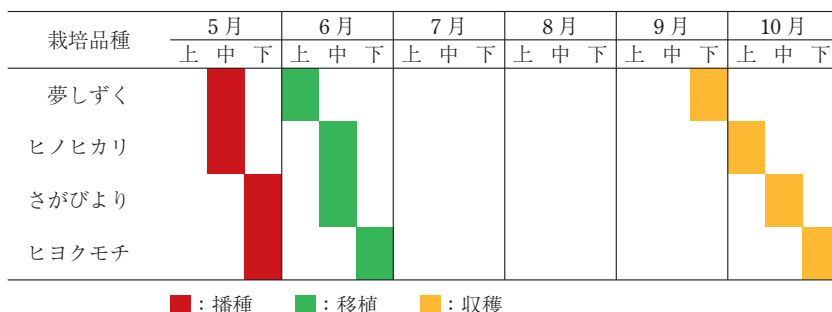


図-1 各品種の栽培状況

Current Status and Problem of Pest and Disease Management on Rice Cultivation in Saga Prefecture. By Tomoya KONDOU

(キーワード：水稻、トビイロウンカ、コブノメイガ、スクミリンゴガイ、紋枯病)